

## 第3回山形県教育懇話会（平成22年9月14日）

### 委員発言要旨

（協議題の（2）「5教振」見直し計画の骨子（案）について）

#### 【大場委員】

（まなび）

- 学習習慣を確立させるためには、学校における学習だけでなく、家庭での学び方（家庭学習）についても保護者にしっかり教えて、学校と家庭が一緒になって子どもたちの成長をみていく必要がある。そのためには、知識の習得とともに、定着という視点も大切にしていける必要がある。

（読書活動）

- 「読書県山形」の創造を打ち出したことは賛成だが、「読育」という言葉には、読解的な意味が強く込められているようにも感じるので、この表現が適切なのかどうか。
- 学校における読書活動を充実させるためには、学校図書館を活用した教育の推進が重要だ。骨子（案）には、読書センター的な文言が多く盛り込まれているが、自ら主体的に学ぶ学習情報センター的な機能にも力点を置かないと、情報の収集・発信という面が弱くなるのではないか。
- 学校経営の目標に読書指導を位置付けていかないと、「読書県山形」もお題目だけで終わりかねない。国語だけでなく、全教科を通して図書館を活用し、教えていくことが大切だ。
- 司書教諭に対して、図書館を活用した「学び方」や「調べ方」をしっかり指導するなど、司書教諭への研修を充実させていくことにより、読書県としての具体的な姿が見えてくるのではないか。
- 県教育委員会としては、現行の子ども読書活動推進計画を改訂して学習指導を重点的に行い、市町村教育委員会ではハード面の整備を行うという両面で、学校の図書館教育を推進していくことが重要だ。

（スポーツ）

- 「力強いスポーツ山形」を実現すると同時に、楽しく体を鍛えるということにも主眼を置き、スポーツタレント発掘事業で培った育成システムを、各小中学校に普及させていくことも必要だ。

#### 【池田委員】

（いのちの教育）

- 計画後期における施策の展開方向としては、これで良いのではないか。また、重点的に取り組むとしている「『生命』を大切にする教育の推進」や「人間形成の基礎を育む『幼児期の教育』の充実」については、今後の具体的な取組みに期待したい。

(読書活動)

- 「読書県山形」の創造として記載された内容は、国語教育の延長のような印象を受ける。また、小学校から高校まで一律に読書に取り組んでいくということには難しさを感じる。発達段階や一人ひとりに応じた読書スタイルというものがあり、もっと幅を持たせて考えた方が良いのではないか。

(学校と地域を元気にする)

- 教育の基本は、目の前の教師から学ぶということであり、教師が主体的に、意欲的になるのは、自分が「活かされている」と感じるときだ。子どもたちにそうした教師の姿を見せないで、「いのち輝く」子どもたちが育つだろうか。骨子(案)の内容は、一般化、平均化された教師の姿であり、一人ひとりの教師の色、味を、もっと大切にしていけることが必要ではないか。

【阿部委員】

(いのちの教育)

- 「いのちの大切さ」を伝えていくためには、その前提となるものをしっかり説明することが必要だ。「『生命』を大切に学ぶ学習プログラム」によって、子どもが「いのち」の大切さを学ぶには、幼児期に五感を通じた実体験が必要である旨を記載する必要がある。

自然の中などで、五感をフルに活用して様々な感覚を味わうことにより、将来、自分の体や生命を大切にすることが理解できようになるからだ。

【五十嵐委員】

(読書活動)

- 「読書県山形」の創造、読書活動の推進については、大いに賛成である。しかし、山形県内における子ども読書活動推進計画の策定済市町村は1箇所であり、全国の状況に比べても格段に低くなっており、その理由をしっかりと考えてほしい。また、県の現行計画については、具体計画や数値目標が設定されておらず、スローガンのような内容に終始している。「読書県山形」を打ち出すのであれば、第二次の推進計画には、是非、前向きな具体計画を盛り込み、数値目標を設定してほしい。また、県の取り組みだけでなく、県内市町村も「子ども読書活動推進計画」を策定して取り組みを推進するように啓発してほしい。

- 読書活動の充実には、情報活用能力の育成という視点も必要だ。鶴岡市の朝陽一小では、学校図書館を活用した授業実践を積み重ねている。調べ学習や課題解決学習には、読む力、読書力を身に付けることが大切であり、そうした力によって、様々なものから読み取り、探し出せるようになる。また、自分が調べようと思ったことを調べられ、更に学ぶ楽しみ、学習意欲となって、学力向上にも結びついている。

- これらの図書館活用教育を展開するには、学校図書館が機能する必要がある。無人の学校図書館は論外だが、人がいればよいということだけではなく、来年度からの新学習指導要領を具現できることも視野に、学習に生きる学校図書館

にすることが大切だ。そのためには、小・中・高校に司書の有資格者が学校司書として配置されるとともに研修制度も必要である。司書教諭が活躍できるような授業時数の配慮と研修等も不可欠だ。読書教育推進のため、教員加配を充実して、図書館活用教育が日常化されるようお願いしたい。

#### 【無着委員】

(特別支援教育)

- 「障がいの有無やその他の違いを認識しつつ様々な人々が生き生きと活躍できる共生社会の実現につなげる。」とあるが、これは大事なこととは思っているものの、その表現として、「その他の違いを認識しつつ」を「多様性を認め合い」にしてはどうか。

(かかわり)

- 「人のあたたかさや、かかわりの中でまなび、つながりあう社会をつくることが大切」という表現は良い。

#### 【角屋委員】

(地域文化)

- 現在の(老朽化した)県立博物館の状況は、必ずしも魅力あるものとは言えない。公立博物館や資料館の閉館、休館が進む中であって、県立博物館の役割は重要性を増しており、是非リーダーシップを期待したい。また建物の新・改築が将来の課題になるにしても、研究成果を蓄積する等の活動も必要ではないか。
- 指定文化財の巡回指導について、所蔵者の意向など難しい面もあると思うが、形式的にならず実のある活動でお願いしたい。文化財の保全は、その活用の源であり社会教育の質の向上につながるものであると思う。

#### 【後藤委員】

(いのちの教育)

- 基本目標にあるように、「いのちの教育」の「いのち」という言葉には深い意味がある。また、「山形らしさ」という、この二つの言葉には、自尊感情との関係も考慮して、もう少し深めていく視点が必要ではないか。「いのちの教育」を推進する上で、教員がしっかりとした考え、理念を持っていないと、単なるお題目で終わるおそれがある。それだけ一人ひとりの教員の力というものは大きい。

(読書活動)

- 「読書県山形」は賛成だ。具体的にどのように工夫していくのかが、次の課題となる。県では大きな視点で方向性を打ち出してもらえれば、市町村ではそれぞれ進めていくものとする。「読書」と「規範意識」、「耐性」の関係は有意性があると考えているので、県民運動として自信を持って進められるものだ。

(その他)

- 道徳教育の部分に「恕(じょ)の心」という記載があり、論語から引用しているとのことだが、論語に限らず古典の中には、大切なスローガンのような人生の道

標となりうるものがあるので、山形県の教育は「これだ！」というものがあると、なお良いと思う。

#### 【鎌田委員】

(学校体育・スポーツ)

○今後も、興味を持って積極的に運動する子どもと、運動することが苦手な子どもとの二極化傾向が進むと思うが、様々な観点から、一人ひとりの子どもの運動への意欲を高める取組みを期待したい。

(生涯スポーツ)

○学校や地域と連携を図りながら、子どもたちの健全育成に取り組んでいる総合型地域スポーツクラブもあるので、そうした部分も記載してくれるとありがたい。  
○総合型地域スポーツクラブの育成・自立支援として、学校や地域と協働による取組みへの支援について記載できないか。

#### 【山川座長】

(読書活動)

○「読書県山形」を打ち出したことは、「いのちの教育」の下支えにもなる。ただ、「読育」は、読解能力の育成にとどまるものと受け取られかねない。県民運動に広げていくのであれば、もっと広い意味として受け取れるよう説明を加える必要があるのではないか。また、県民運動を目指すのであれば、計画段階での準備も大切であり、年次計画等も必要になるのかもしれない。いずれにしても素晴らしいことなので、是非実現させてほしい。

[文書による意見]

#### 【寒河江委員】

(幼児期の教育)

○幼児期の教育は、学習意欲や興味を高めるための環境や方法を工夫することが重要であり、「遊び」から、様々なものへの興味関心を高めていくことや、一人ひとりの得手、不得手を踏まえ、それを活かした教育が大切である。

(これからの社会を主体的に生きぬく力)

○これからの社会を主体的に生きぬくためには、競い合う中で負けない強さ、たくましさとともに、自らを高めていく「向上心」を重視していくべきではないか。

(情報活用能力)

○溢れる情報の中から有益な情報を見つけ出し、活用していくという情報活用能力をつけるためには、新聞を教材として活用し、多角的な視点から判断し、考えるという学習が最適である。

以上